

小中学校の統廃合の変遷と今

内山雄平

紙幅の関係から、小・中学校統廃合の事実経過を述べるとどめた。

1、佐渡市合併と学校統廃合計画

(1) 佐渡市合併の経緯

佐渡島の全市町村が合併して新しく佐渡市になった理由は、新市議会が政府と県にあげた「合併特例法に基づく合併優遇措置の遵守を求める意見書」に明らかで、合併特例法に基づく国と県との支援約束は次の7項目である。

- ・国は、平成15・16・17年度の3力年で9億円の補助金を交付する。
- ・県は、合併初年度に特別交付金を15億円交付する。
- ・合併特例債事業の起債充当算定基準を特別に優遇す

る。

- ・基金造成に対する支援は、40億円とする。
- ・合併直後の臨時的支援を5年間で13億8千万円支援する。

・新たな特別交付税を9億3千万円交付する。

その目的を、少子高齢化・人口減で地域の担い手不足や福祉関係の需要が増大する一方で、税収が減るなどの財政悪化が予想される対策とした。

当初から新市は、「合併後交付税は10年間、保証され、合併特例債があるから多額の建設事業を実施しても大丈夫である」として、無理な財政計画を立てた。その上、小泉内閣の「三位一体」改革（国から地方へ①権限委譲②財源移譲、それに伴う③補助金の削減）による大幅な財源不足化を加速し、新市計画は今後10年

間で734億円の歳入不足に陥ることが明らかとなった(16年度的一般会計535億円)。当年度(平成16年)だけでも35億円の歳入不足となり、誕生したばかりの新市は初年度で破綻し、一から事業を見直さざるをえなくなつた。

それまでの財政計画を見直し、事業の縮小・人件費の削減、民間委託、統廃合等をすすめ、とりわけ小中学校の統廃合計画は前期(平成18年～23年)、後期(平成24年～29年)に分け実施することを明らかにした(平成18年9月策定)。

(2) 小中学校の統廃合計画

平成16年度11月、佐渡市教育委員会から諮問を受けた「学校教育環境整備検討委員会」は、翌17年8月「佐渡市立小中学校の通学区区域の変更及び学校統合並びに校舎等整備計画」について、次のような答申を出した。

検討内容は、「義務教育水準の維持向上と学校経費の合理化を図るにはどうするかを主課題とし、児童生徒数の推移および各学校の現状確認を行うとともに、各地域の地理的・文化的特色等の現状や課題を踏まえ、

社会的背景をも考慮した」として、以下の基本方針と具体的方策を明らかにした。

△基本方針▽

○小学校：①通学時間・距離を考慮し、1学年1学級の普通学級6学級以上とする。②地理的条件等で統合が困難な学校は特色ある学校づくりとして存続させる。③学級編成は現在の県基準による。

○中学校：①地域とのつながりも重要だが、社会性を育むことを重視し、1学年2学級の6学級以上とする。

②地理的条件等で統合が困難な学校は、特色ある学校づくりとして存続させる。③学級編成は、現在の県基準とする。

△具体的方策▽

①適正な学校規模：小学校13校・特色ある学校3校。中学校6校・特色ある学校3校。

②特色ある学校づくりの事例：小中学校の連携、保育園・学童保育所・デイサービスセンター等の併設。

③通学距離：小学校はおおむね30分、中学校はおおむね50分。

なお、遠距離の学校統合の際はスクールバス等の交通手段を確保する。

第1表：小中学校の統合計画（佐渡市ホームページより作成）

旧市町村	小学校名	校数	中学校名	校数
両津	両尾、河崎、両津、両津吉井、加茂、馬首(前)、浦川(前)	7校を3校に	東、南、北(前)	3校を1校に
相川	相川、七浦、金泉	3校を1校に	相川	1校
佐和田	沢根、河原田、八幡、二宮	4校を2校に	佐和田	1校
金井	金井、金井吉井	2校を1校に	金井	4校を2校に
新穂	新穂、行谷	2校を1校に	新穂	
畑野	畑野、後山、小倉(前)	3校を1校に	畑野	
真野	真野、西三川、西三川笹川分校	3校を1校を1校に	真野	3校を1校に
小木	小木、深浦(前)	2校を1校に	小木	
羽茂	羽茂、大橋(前)、小村(前)	3校を1校に	羽茂	
赤泊	赤泊、川茂(前)	2校を1校に	赤泊	

小中連携校

旧市町村	学校名	校数
両津	内海府中、内海府小	1校に
	前浜中、岩首小・野浦小・片野尾	1校に
相川	高千中、高千小	1校に
畑野	松ヶ崎中、松ヶ崎小	1校に

この小中学校統合計画を旧市町村別（以下、旧市町村の旧は略す）にみると、第1表となる。

2、合併以前の統合の推移

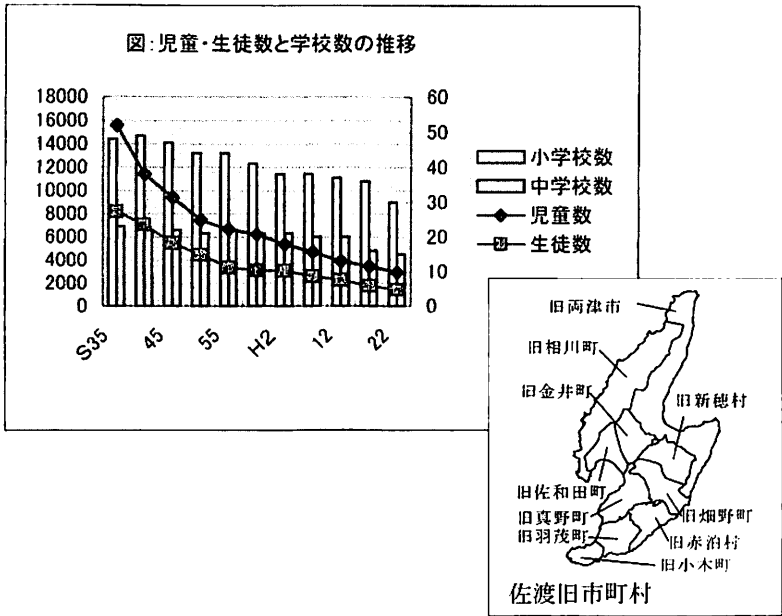
最初に、昭和29年に実施された昭和の市町村大合併による学校統廃合をみてみよう。

当時の合併によって新しく誕生した市町村は、両津市（両津町、加茂・内海府・河崎・水津・岩首の各村）、相川町（相川町、金泉・高千・外海府各村）、佐和田町（河原田・沢根各町、二宮・八幡各村）、金井町（金沢村・吉井村大部）、真野町（真野町、西三河の一部）である（一）内は各町村の合併。新穂村、畑野町、小木町、赤泊村は合併していない。

合併した佐和田町において、昭和33年（1958年）河原田・佐和田（二宮）・八幡の各中学校が統合した佐和田中学校である。

当然、小中学校の統合は児童・生徒数の増減が関わっており、1955年以降の小中学校の児童・生徒数および校数の推移を示すと次ページの第1図のようになる。

児童数の最高時は1954年次(昭和34年)の17、574人(480学級)であり、現在(2010年)2、



949人(172学級)と約6分の1に減少した。特に、1960年以降から75年にかけて著しく減少した。このような児童・生徒の減少に対応し、学校統廃合がどのようにすすめられたか、市町村別、年代別にみると、第2表のようになる。

市町村では、両津市と相川町に偏り、なおかつ80年代と2000年代に集中している。地域的には佐渡島北部の両津市の内海府海岸、相川町の外海府海岸に位置する学校となっている。それまでに統合した小中学校26校の内、僻地(注)に属する学校は特地2校、1級14校、2級9校、3級1校、4級1校である。

(注) 数字の大きさに比例。級の数が多い程、僻地度が重い。

また、どのような規模で、統合の対象となったかを、その前年度の児童数および学級形態(単式・複式、両者設置)をみると第3表のようになる。

一方、それまで統廃合を実施していない町村は、小学校で佐和田町、新穂村、畑野町、赤泊村の4町村、中学校では、新穂村、畑野町、小木町、羽茂町、赤泊村の5町村となっており、この内、合併しなかった新穂村、畑野町、赤泊村は小中学校とも統合していない。

第2表：佐渡小中学校統廃合の推移

2010年4月現在

校種	旧市町村	昭和35年校数	60年代(S35～45年)		70年代(S45～55年)		80年代(S55～H2年)		90年代(H2～12年)		2000年代(H12～22年)		平成22年校数
			統廃合校数	統廃合の学校	統廃合校数	統廃合の学校	統廃合校数	統廃合の学校	統廃合校数	統廃合の学校	統廃合校数	統廃合の学校	
小学校	両津市	13					-2	白瀬→加茂 北鶴島→内海府	-1	赤玉→岩首	-2	片野尾・岩首と野浦 一野浦を前浜に 馬首→加茂	8
	相川町	10			-2	北一高千 大高→相川	-3	高千北一高千 外海府・小田→高千			-1	二見→七浦	4
	佐和田町	4											4
	金井町	3			-1	平泉→金井							2
	新穂村	2											2
	畑野町	4											4
	真野町	4	-1	大小→真野			-1	静山→真野			-1	西三川→真野	1
	小木町	3		宿根木→小木									2
	羽茂町	3									-2	大滝・小村→羽茂	1
	赤泊	2											2
小計	48	-1		-3		-6		-1		-7		30	
中学校	両津市	6							-2	岩首・水津→ 1 前浜中創立	-1	北→南	4
	相川町	5					-1	外海府→高千			-2	金泉・二見→相川	2
	佐和田町	2			-1	沢根→佐和田							1
	金井町	2	-1	吉井→金井									1
	新穂村	1											1
	畑野町	2											2
	真野町	2									-1	西三川→真野	1
	小木町	1			1	深浦分校→本校					-1	深浦→小木	1
	羽茂町	1											1
	赤泊村	1											1
小計	23	-1		0		-1		-1		-5		15	

注：統廃合対象の学校→統合した学校

在、次に、第1表のとおり、統合計画は2010年現在、次の小中学校で実施に移された。

旧両津市、片野尾・岩首・野浦各小中学校は、前浜小

3、現在の統廃合計画の進捗状況

第3表：統合前年度の児童・生徒数と学級形態 2010年4月現在

校種	60年代(S35～45年)		70年代(S45～55年)		80年代(S55～H2年)		90年代(H2～12年)		2000年代(H12～22年)	
	校名	児童生徒 学級形態	校名	児童生徒 学級形態	校名	児童生徒 学級形態	校名	児童生徒 学級形態	校名	児童生徒 学級形態
小学校	宿根木	41 ○	北大小 平泉 大高	91 ○ 33 ◎ 97 ○ 59 ◎	白瀬 北鶴島 高千北 静山 外海府 小田	41 ◎ 2 ◎ 11 ◎◎ 6 ○	赤五	18 ◎	二見 片野尾 岩首 野浦 馬首 西三川 大滝 小村	18 ◎ 16 ◎ 7 ◎◎ 9 ◎◎ 7 ◎◎ 28 ◎ 12 ◎ 19 ◎
	吉井	328 ○	沢根	154 ○	外海府	37 ○	岩首 水津	17 ○ 36 ○	西三川 深浦 金泉 二見 北	29 ○ 29 ◎ 58 ○ 53 ○ 11 ◎◎

注：学級形態の○は単式、◎は複式、◎◎は両者の併置

として、同市馬首小は加茂小にそれぞれ平成19年度に、西三川小は真野小に、および羽茂町、大滝小・小村小は羽茂小に統合された（平成22年度）。中学校は、旧両津市、北中は南中と統合した（平成20年度）。

今後、統廃合が決定されている学校は次のとおり。

金井小・金井吉井小↓金井小、後山小・小倉小↓畑野小（平成25年4月1日付）、小木小・深浦小は統合（平成23年4月1日付）。また、小中連携校は、内海府小と同中との間で、松ヶ崎小（岩首小と統合）と同中、前浜小と同中がそれぞれ平成24年4月1日付で実施に移される。予定されていた相川小・七浦小・金泉小の統合は事実上棚上げ状態である。

一方、中学校は小木中と羽茂中とが合併し（平成23年4月1日付）、計画されていた赤泊中は、加わらない。

（参考資料）

・文中の図および表は「学校要覧」（1955年～2010年。新潟県教育委員会）により作成。

（うちやま ゆうへい・研究所事務局長）